

- 猿田彦大神（炭焼）

炭焼地蔵
（百石地蔵の一つ）

炭焼地蔵集敬堂

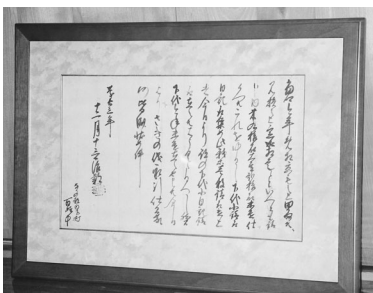
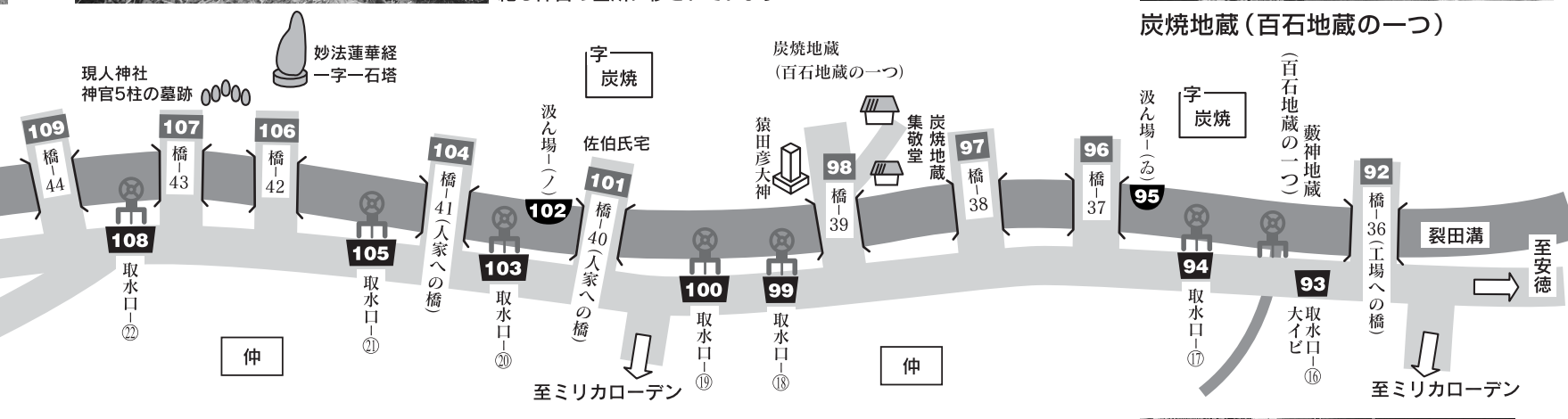
みょうほうねんげきょういちじいっせきとう
妙法蓮華經一字一石塔

かいじいじょう
皆済状（慶長3年（1598））
（石田三成から下村の百姓へ）

現人神社
神宮5柱の墓跡
（現人神社神宮9柱の
墓地下へ平成19年に移す）



みょうほうれんげきょういちじいっせきとう
『妙法蓮華經一字一石塔』
つちのえとら
文化十五年戊寅五月(1818)



ねんぐかいざいじょう
『年貢皆済状』
慶長三年(1598)
石田三成から下村の百姓へ
送られました



裂田溝沿いに四季折々の
彩いろどりを添える大樹と石垣

裂田溝は炭焼橋を過ぎて「古河」と「大イヅ」に大きく分水され、取水口⑰から炭焼地区の田んぼへと取水されます。この取水口から15mのところ、最初の汲ん場（ゐ）があります。そばの橋ー37、橋ー38を過ぎて、次の橋ー39を渡った左側に『文政三丙戌歳三月吉日』（1826）に祀られた「猿田彦大神」があります。ここからゆるやかな坂を100mほど登ったところにある雑木林の中に、別名「百石地藏」の一つといわれている「炭焼地藏」を祀るお堂があります。天正十四年（1586）、この地方は島津秋月連合軍の戦火に焼かれ、多数の侍や村人が難にありました。その人たちの霊を弔うた

次に取水口―⑱、取水口―⑲と続き、この辺りから溝沿いの石垣は右に大きくカーブを描き、次の橋―40へと続きます。橋を渡った北側には汲ん場―ノ―があります。この汲ん場も、昔から生活の一助として人々の暮らしに役立ってきたのでしょうか。すぐそばに取水口―⑳があります。この辺りから溝沿いに、高木のマキやカシの樹木が繁り、がっしりと組み込まれた石垣は、いつそう力強さを感じさせます。その他、梅、桜、つつじ、椿など四季折々の花木が風情を添え、散策の人々の心をなごませる水路道です。



炭焼地藏（百石地藏の一つ）



猿田彦大神
ひのえいぬ
文政九丙戌歳三月吉日(1826)

探訪 108

ながわ

那珂川町郷土史研究会

裂田溝35

炭焼地区周辺



めに、この地蔵を祀ったと伝えられています。昔から、このお地蔵さまにお参りするとこの利益があるといわれ、以前は参詣人も多く、祭日にはご飯の炊き出しもあり、子どもの寄り合いなどもあつて、大変賑わつたそうです。かつてこの道は、梶原に通じる道でした。今でもお盆とお正月前には、地区の人たちで旧道の竹笹切りや、お地蔵さま周辺の清掃が行われています。また、橋の袂には「炭焼地蔵集敬堂」が建っています。建物はお地蔵さまにお参りする人のお休み処として建てられたもので、腰掛も備えられています。中には2枚の棟札が掛けられています。ここで一休みしていると、地元の人たちの優しい心遣いが感じられ、また元氣をもらつて散策の足どりも軽やかになりました。



年中行事のひとつ。お地蔵さまの清掃が終わり、お茶を頂きながらごむ皆さんの笑顔が素敵でした



『炭焼地蔵集敬堂』
昭和63年6月吉日竣工・平成17年11月竣工2枚
の棟札があります

コースメモ

95. 汲ん場一(み)
96. 橋一37
97. 橋一38
98. 橋一39
(側に猿田彦大神あり)
99. 取水口一⑱(堰)
(巻上げ)
100. 取水口一⑲(堰)
(巻上げ)
101. 橋一40 人家へ
102. 汲ん場一(ノ)
103. 取水口一⑳(堰)
(巻上げ)
104. 橋一41 人家へ
105. 取水口一㉑(堰)
(巻上げ)
106. 橋一42
(一字一石塔へ)
107. 橋一43
108. 取水口一㉒
(堰なし)(巻上げ)
109. 橋一44
↓
次号へ 五郎丸地区周辺